

岩崎純一歌集		『新純星余情和歌集』>2000年の
歌集名読み		しんじゆんせいよせいわかしふ
作者		岩崎純一
通釈・語釈		園井長光、岩崎純一(自釈)
作者サイト		http://iwasakijunichi.net/
和歌ページトップ		http://iwasakijunichi.net/waka/
詠進年月日	題	2000年の歌会・歌合(全て自歌会・自歌合)
主催: 岩崎純一	歌数:3首 歌人数:1名 自歌数:3首	『岡山三大河川和歌』(をかやま)
2000		岡山県内を流れる三大河川を和自撰
2000/10/3	吉井川	吉井川流るる水のもみぢ葉も児島の入江そそぐ紅(くれなゐ)
2000/10/6	旭川	夕日照り名と争ふは旭川何朝のみをあはれとやせし
2000/10/9	高梁川	佇めば高梁川に雨落ちて遠くの岸に見る昔かな

り部

通釈	語釈	他歌人欄
さんだいかせんわか)		評
歌に詠んだ。		
吉井川の水は、紅葉して散った葉までも運び、児島湾に紅色にそそぐのだ。		
夕日が旭川に照り映える。川の名の「あさひ」と争うかのように。どうして「この川に映える日と言えは、朝日だ」などとされているかのような名前なのか。		
高梁川のほとりにふと佇むと、雨が降り落ちる中、遠くの岸を眺めるかのように、昔の思い出が甦ってくる。		

